

ABOUT FOOD RESEARCH

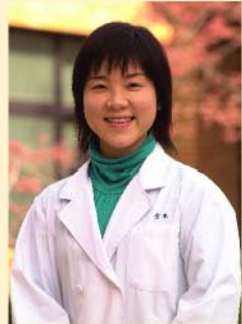
食を通して人々の健康を支えるために

Interviewer Voice

栄養士に求められている
真の役割を学ぶためのインタビュー
尚綱短期大学家政科食物栄養専攻2年
松本優美子さん

私はこれまで、栄養士とは、栄養指導と献立作成、調理を行うのが主な仕事だと考えていました。しかし、学園で「食」と「健康」のつながりの深さを学ぶうちに、私たちに求められているのは地域社会の人々の健康を支

えるという役割であると気付きました。そこで今回、学園を卒業された先輩方を訪ね、実際に社会で活動されている内容を伺うことにしました。その中から、今の私にできること、将来へ向けて実践すべきことを見えてくるのではないかと考えたのです。訪ねた先輩方は、自らが学ぶ姿勢を保ち、さらに食を通して社会に役立つためには何が必要なのかを常に



相対する人の気持ちを
押し量れるプロを目指して

尚綱短期大学専攻科食物栄養専攻
(平成16年3月卒業)
宮本優香さん

今春、専攻科を卒業したばかりの宮本さん。5月に行われる管理栄養士の国家試験合格を目標に、猛勉強中です。専攻科のカリキュラムについて尋ねると、「短大の時

よりゆとりを感じました。しかし、その分、自分自身で学ぶべきことを探し、追求する姿勢が求められます。専門的な知識、論文を書く力が養われました」とのこと。また、「短大の2年次には実習をしっかりと」と激励が。「実習では小学校や病院など3〜5カ所を回りますが、場所が変わると学ぶ内容も変わります。小学校では、子どもたちに食に興味をもってもらうきっかけづくりの難しさを実感。相手の気持ちを図ることができる管理栄養士になりたいと思うようになりました」と、自らの体験を話してくださいました。



実務を通して働く中で、
得られる喜びを実感

熊本市出水南共同調理場勤務
栄養士 藤本智子さん

藤本さんは、公務員試験に合格し、中学校栄養士として実務体験中。「一度、社会人を体験しているため、すぐにでも働きたいと思い、この道を選択しました」と藤

本さん。この春、手計算によるカロリー計算に取り組み、その大変さを感じていた私には、「尚綱では、基本をしっかり学んだ上で、実務に必要な事柄を徹底的に身につけられるのが素晴らしい点。社会に出てみると、役立つことばかりだと感じます」とアドバイス。
藤本さんは現在、3校分、2000食を毎日作り、安全管理や給食の時間を使っている栄養指導も行っています。「生徒たちが、直接お話しできると言ってくれる時、無条件に喜びを感じます」とときっぱり。今後は、働きながら管理栄養士資格取得を目指していくそうです。

一生を通して続けられる
やりがいを感じる仕事

介護老人保健施設(ヘルシーブレイ) 十六 勤務
管理栄養士 相藤恵子さん



「施設を利用される方の食事管理や献立作成、栄養指導、施設外の方に向けて栄養教室などを行っています」と相藤さん。短大卒業後、栄養士として2年間の実務を経験し、「もっと知識を深め

たい」との思いから、管理栄養士の資格を取得しました。現在、毎日12パターン×3食分のメニューを作ると聞いて、驚きました。相藤さんは「食は生なり」を基本に私たちが旬や郷土料理を取り入れるなどの工夫を行うことで、食べる楽しみを味わっていただき、食を通して元氣になつてもらえることが一番のやりがいなのだそう。
「社会に出た後は、自ら学び続ける努力が必要。私は、卒業後も短大時代の先生方に尋ねながら取り組んできました。一生続けられる仕事ですから」と笑顔で話してくださいました。

自らのスキルを生かして、
チーム医療の一員に

日本赤十字社熊本健康センター勤務
管理栄養士 矢野圭子さん



「管理栄養士は、検査データをもとに、健康支援に携われるところが魅力です」実務経験後、国家試験に合格した経験を持つ矢野さん。栄養カウンセリングを通して、実際に健康への意識を高めていく

受診される方や患者様とお会い出来るのが、最大の喜びだと話されます。「栄養カウンセリングは、食事の支援以外にコミュニケーション能力も求められます。相手を理解し、支持していくにはどのようなアプローチが必要かと考え始めると、心理学など幅広い分野について、学ぶ意欲がわいてきます」とやりがいも伝わってきます。
日本では、管理栄養士の役割として医師や看護師、薬剤師等と同等に対応できるチーム医療が導入されています。「情報をキャッチし、自らのスキルが発揮できるこの仕事に誇りを感じます」と話す矢野さんの言葉で、私は大きくうなずきました。

より高度な知識や技術を備えたスペシャリストを養成

栄養士、管理栄養士の育成を図る尚綱短期大学食物栄養専攻、専攻科。当学園の卒業生たちは、現在、県内における栄養士の70%を占めており、それぞれの現場で、食を通して人々の健康を考え、支えるという大きな役割を担って活躍しています。

学生時代、学園の整った設備と教師陣のもとで培った知識や技術を、地域の人々の健康維持のために実践指導し、啓もうしているのです。

それは、老人保健施設など福祉社会の発展に寄与し、また、病院や学校給食などでは、多くの人々の食生活の基礎を支えることにつながっています。

当学園の卒業生たちが社会に及ぼす影響の大きさを考え、また、今後も、地域社会において大変重要な「食と健康」の啓もうを続け、寄与し続けるために、私たちは卒業生たちがこれまでに切り拓いてきた道を、より確かな力で歩むスペシャリストの育成を図ることが必要であると考えています。

そこでは、今以上に高度な知識、実践力を身につけることができるカリキュラムの構築が必要です。近年の科学発展に対応するためにも、4年制大学化の実現が急務であると考え、検討を重ねています。(尚綱短期大学 副学長 太田直)